セキュリティ：Windows Virtual Desktop

CITY ASCOM

# USERS REPORT

導入ソリューション

## Windows Virtual Desktop

Microsoft社が提供する、デスクトップ仮想化（VDI）サービス。リモートワークに欠かせない「どこからでも安全に接続できる環境」　を低コストでスピーディに実現。

＼成 果／

開発部門でも
出社数０を実現！
働き方に大きな変革。

## 九州最大手の独立系ICT企業
## WVD(Windows Virtual Desktop)によりリモートワークに迅速対応！

福岡に本社を置き、金融系や流通系などの業務システム開発を行っている。Microsoft365（以下MS365）の導入やサテライトオフィスの設置など、働き方改革に積極的に取り組み、WVDを活用し業務システム開発部門を含む、全社一斉リモートワークを実現。ICT企業として常に新しい技術への挑戦を続けている。

# Summary

### ■ 背 景 ■

**1. 働き方改革**

Microsoft365導入、サテライトオフィス設置などかねてから進めてきた働き方改革への取組の結果、次の段階としてリモートワークの必要性が認識されていた。

**2. 緊急事態宣言への対応（全社一斉在宅勤務）**

新型コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言への対応として、全社一斉リモートワークへ。早急な環境整備が必要となった。

**3. 積極的な最新技術への挑戦**

リモート環境構築にあたり、複数のツールを検討。その中でもリリース間もないWVDの性能に注目し、いち早く検証を開始した。

### ■ 成功ポイント ■

**1. 事前の調査・検証**

ICT企業として常に新しいツールを調査・研究に取組む中でWVDに注目。リリースから3か月後の2020年1月には試行運用を開始した。

**2. 社内システム環境との親和性**

社内システムはMS365、Azureを利用していた。WVD導入にあたり既にあるライセンスから追加コストがかからず、環境構築もスムーズに行えた。

**3. 処理速度など高パフォーマンス**

システム開発をリモートワークで行うには環境の他に処理速度も鍵となる。WVDは開発するのにストレスを感じない処理速度であった。

### ■ 効 果 ■

**1. 開発部門で完全リモートワーク**

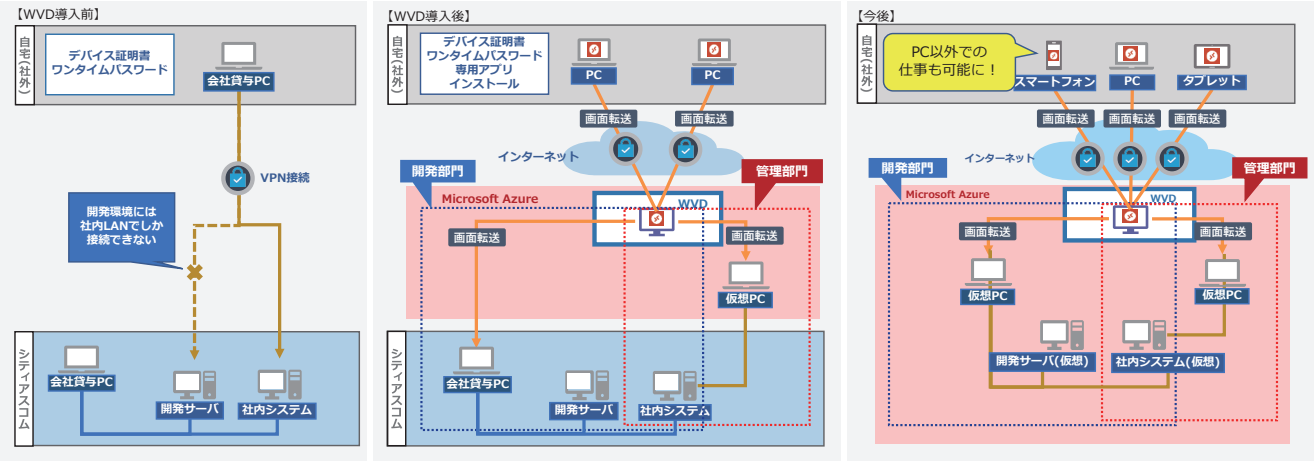
業務システム開発の特性上難しかったシステム開発部門において、100%リモートワークを実現。

**2. IT部門の管理負荷低減**

IT部門において、リモート環境構築、運用管理の負荷が激減。スピーディな環境構築、変更対応ができるようになった。

**3. 社外からの接続がよりセキュアに**

従来は社外から社内へ接続するにはVPN接続を使用。VPN接続ではPC内に情報が残ってしまうが、WVDなら何も残らずセキュリティが強化した。




## 働き方改革

シティアスコムは2016年から働き方改革に着手し、MS365の導入や会社スマートフォンの配布などを行い、一部では先行してリモートワークを実施していた。2019年頃には全社一斉リモートワーク実現を目指していたが、業務システム開発においてプロジェクト毎に異なる開発ツールや環境が課題となり、様々なリモート接続方法を模索していた。
そんな中出会ったのがWVD（Windows Virtual Desktop）だ。コーポレートIT部（以下CIT部）は、2019年10月のWVDリリース当初より、そのセキュリティや展開の速さ、同社で活用していたMS365やAzure環境との親和性などに着目し調査を進め、リリースからわずか3か月後、2020年1月、WVD試行運用を開始した。

## 緊急事態宣言により完全リモートワークへ

ちょうどその頃、新型コロナウィルス感染症が拡大し始めていた。同社は社員の安全確保、事業継続といった観点から危機感を募らせ、以前より進めていた全社一斉リモートワークの実現を急いでいた。そして2020年4月、緊急事態宣言発令を受け、全社一斉リモートワーク実施を決定。これがかねてより検証を進めていたWVD本格導入の決定打となった。WVD環境構築を担当したCIT部古賀大輔氏は当時のスピード感を「構築期間は1週間程。関連会社分を含め約8部門分を構築した。」と話す。この時構築したリモート環境は2種類ある。会社貸与ＰＣからWVDを介して社内システムに接続する管理部門向けの環境と、個人PCからWVDを介して会社貸与PCに接続する開発部門向け環境だ（上部図参照）。こうすることで、プロジェクト毎に異なるシステム開発環境はそのままに、スピーディにリモート環境を構築し、全社一斉リモートワークを実現した。

## リモートで業務システム開発を実現

リモートでのシステム開発について、流通製造開発部でプロジェクトリーダーを務める柴山誠啓氏は「こんなにスムーズだとは思わなかった」と感嘆の声を上げる。日々の利用開始はアプリを起動しログインするだけ、また開発においても、処理速度など物理PCと変わらない使用感であると言う。さらに「システム開発はチームで行うもの。不安だったコミュニケーションも、1日2回の定時ミーティングなどを実施し、意識することで逆に活発になった」と言う。

経営管理本部コーポレートIT部
主任　古賀 大輔氏
開発本部流通製造開発部
主任　柴山 誠啓氏

## よりセキュアな環境をスピーディに

同社は従来、リモート接続にはVPN接続とデバイス認証を利用し、メールの送受信やUSBなど外部媒体への接続制限などにより会社貸与PCからデータを取り出すことはできないようになっていた。
WVDは個人PCより接続するが、接続先のデスクトップ画像のみを受信し、データが個人PC側には残らない。PCの中に情報を持ち歩くことにはならず、より一層のセキュリティ強化につながっている。さらに、WVDは「Windowsマルチセッション接続」が可能であり、ユーザ毎に仮想マシンを割り当てるのではなく、複数ユーザの利用を想定したVDI環境を1台の仮想マシンで構築できる。仮想マシンのリソースを共有し、必要なアプリケーションを複数ユーザで同時に使用することも可能だ。また、仮想マシンへのアクセス制御をする管理コントロールプレーンも複数準備されており、それらを組み合わせることで、環境をスピーディに構築、管理・運用の負荷低減につながった。

## 新しい働き方を目指して

緊急事態宣言という特殊な環境下ではじまったリモートワークではあるが、古賀氏、柴山氏はそれぞれの立場から新たな働き方を目指してこう語る。「現在社員1人1人に支給しているPCも、WVDを活用しクラウド上の仮想マシンでの対応を可能にすれば、タブレットやスマートフォンで仕事ができる。さらに、WVDは従量課金のため稼働時間に応じたコストコントロールも可能。これらを最適化してゆくことで、スピーディなマシン調達、コストカットを実現したい。」「リモートワークでエリアに縛られない優秀な人材獲得を目指す。」同社の新しい働き方を支え、今なお進化を止めないWVDと、常に新しいチャレンジを続ける同社の取組に注目である。

CITYASCOM
株式会社　シティアスコム
〒814-8554　福岡県福岡市早良区百道浜2-2-22　AITビル
TEL：092-852-5120
https://www.city.co.jp/